高校2年生　歴史総合／台場とは

とっとりデジタルコレクション収蔵　鳥取県立博物館所蔵『北栄町大栄　お台場跡（旧砲台跡）』昭和48年
https://digital-collection.pref.tottori.lg.jp/search/detail?cls=muse_c210&pkey=01151

台場とは・・・

幕末の日本列島周辺には異国船が頻繁に出没するようになり、にわかに緊張が高まったので、幕府も文政８（1825）年に「異国船打払令」を出すなど対応に追われる最中、嘉永６（1842）年には**ペリー来航**という大事件も起きました。

鳥取藩でも、こうした情勢の緊急性から、鳥取城下に近い千代川河口近くや橋津（湯梨浜町）、淀江（米子市）など年貢米を納める藩倉がある地など、藩内の重要地点9ヵ所に、文久２（1862）年から三年間という短期間で台場を造り始めました。

また、台場に据える大砲を製造するため、西洋式の鉄精錬所である**反射炉**を六尾（北栄町）に設けました。これらの施設を造るため、郷士・武信潤太郎に長崎で西洋砲術も学ばせました。

けれども、当時の鳥取藩の財政は火の車。とても肝心の台場を造るお金がありませんでした。そこで、豪農、豪商から多額の献金をうけ、郷士や農民、町人を動員して何とか完成させました。

現在、県内には、浦富（岩美町）、橋津、由良（北栄町）、赤崎（琴浦町）、淀江、境（境港市）と**６カ所**もの多様なかたちの西洋式台場跡が残っていて、うち５ヶ所が国の史跡に指定されていることは他県にはない大きな特徴です（※）。

最近では、複数の台場跡をめぐる「台場ツアー」（琴浦町）や「台場サミット」（北栄町）など、台場を活用する取組も始まっています。

幕末の郷土の先人たちが、鎖国か開国かという大きな歴史のうねりの中で造り上げた貴重な遺産をこれからも県の宝として大切に活用していきたいですね。
※残る赤崎台場跡も国史跡に指定されることが11月20日に内定しました

https://www.pref.tottori.lg.jp/255016.htm　**とりネット**
「第１９回「鳥取藩台場跡 ～風雲急を告げる幕末の海防遺産～」より転載

浦富台場跡

鳥取藩台場跡として昭和63年7月29日に国の史跡に指定された台場のうちの一つです。

このお台場ができるまでの歴史は江戸時代、寛永15(1638)年の島原一揆以降の鎖国政策をとった際、海岸警備のために浦住(浦富)に見張り所がおかれたことからはじまり、文久3（1863）年6月14日、鳥取藩が天保山台場にてイギリス船を砲撃をしたことからの報復を想定して急いで8か所にお台場を築造するよう指示が出されました。

そのうちの一つの浦富台場では鳥取藩の家老鵜殿家の指揮の元、民の共同仕事・労力奉仕により築造され、民兵による訓練・守備が行われました。そこには鵜殿家が町浦富の発展を願っていた気持ち、それに反した経済的実情、民の結束など深い歴史があります。

いわみのあしあと・歴史と観光と暮らしの記録「浦富お台場公園(浦富台場跡・国史跡)」より一部転載

https://iwamiguideclub.com/ashiato/history/odaibakouen.html

由良台場跡

鳥取藩が幕末に築造した砲台跡は、国の史跡に指定されています。

東西125メートル、南北83メートルに土塁をめぐらし、八門の大砲を据え、常備の兵や農兵約300人近くを配置したと伝えられています。

大砲は、オランダ式の反射炉で鋳造され、役場の近くには鋳造場の跡がみられました。

現在、史跡周辺は整備され、公園には、大きさ約3メートル、口径35センチ、重量3トンという当時最大級の大砲のレプリカが展示されており、また公園に隣接して、反射炉をデザインした「歴史文化学習館」には反射炉の模型を見ることができます。キャンプ場など楽しめる施設があります。

とっとり旅【公式】鳥取県観光・旅行情報サイト「由良台場跡」より引用
https://www.tottori-guide.jp/tourism/tour/view/351

赤碕台場跡

鳥取藩台場跡のひとつ～赤崎台場跡～

　赤崎台場は、藩倉があった赤崎の防備のため、文久３（1863）年につくられました。
　設計では由良台場と同じ武信潤太郎が関わりました。西洋式の城塞プランが採用された、鳥取藩内の台場では唯一の半円形をした台場でした。全国的に見ても半円形の台場は極めて少なく、赤崎台場の大きな特徴です。
　築造では、当時の鳥取藩が財政難であったため、大庄屋の河本家からの寄付や周辺の農民たちの積極的な協力によってつくられました。
　昭和３３年から始まった国道９号の工事により、台場は埋め立てられてしまいました。現在、往時の姿を見ることはできませんが、平成２５・２６年に行われた発掘調査の結果、ほぼ当時のかたちを留めていることが分かりました。

　鳥取藩によって築造された台場は９ヶ所ありました。そのうち現存する５ヶ所の台場跡がすでに史跡に指定されています。
　そして、平成28年3月1日に「史跡　鳥取藩台場跡」に追加指定されるかたちで、赤崎台場跡が加わりました。

琴浦町ホームページ「赤崎台場跡」より引用
https://www.town.kotoura.tottori.jp/docs/2016030200042/

淀江台場跡

淀江町今津にある淀江台場跡は、文久3年（1863）に築かれたもので、現在は、長さ約65メートル、高さ約5メートルの土塁が残っています。昔の絵図を見ると、現在の土塁の両端がさらに翼のように延びていたことがわかります。現存する部分は、海に面した方の下部であり、もとの高さは、現在の3倍くらいはあったといわれています。台場の全面を覆っている赤土は、大山町の晩田山から運ばれたと伝えられています。当初は国産の大砲3門が備えられ、後でさらに8門が増設されたようです。

米子市ホームページ「国史跡 鳥取藩台場跡淀江台場跡」より引用

https://www.city.yonago.lg.jp/17263.htm